

第16期

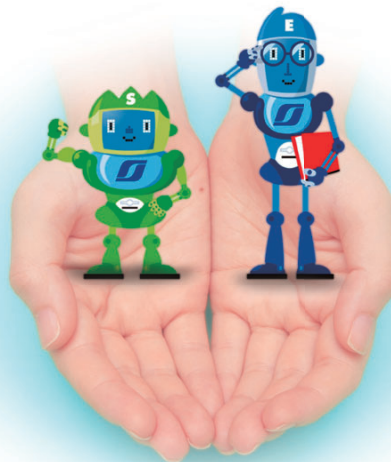
株主通信

2012年12月1日～2013年11月30日

 イーサポートリンク株式会社



この手で、みんなの安心、届けます。



将来に向けた持続的成長の“礎”を築き上げ、 チャレンジをしていきます。

株主の皆様におかれましては、日頃より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。第16期「株主通信」をお届けするにあたり、謹んでご挨拶申し上げます。

代表取締役社長 堀内 信介

2013年11月期の決算の総括をお聞かせください。

2013年11月期は、お蔭さまで、当社としては過去最高益を達成いたしました。これは、大手小売・スーパーとその納入先にご利用いただいている生鮮MDシステムの利用社数とデータ件数が拡大し、大きく収益に貢献したことによるものです。一方で、皆さんご存知のとおり、昨年フィリピンを数十年に一度という台風が襲い、主要クライアント企業のメイン商材であるバナナの輸入量が減ったことで、当社の業務受託量も減少いたしました。

その結果、売上高につきましては前期より微減の42億25百万円、営業利益につきましては費用の抑制などに努力したことで前期を上回り5億26百万円、経常利益も前期と比較して増益となり5億17百万円、当期純利益につきましては、3億16

百万円となりました。当期純利益については前期に比べ減少しておりますが、税金費用の増加等によるものです。

セグメント別に詳しく状況を教えてください。

まず、システム事業からご説明をいたします。当社は、大きく2つのシステムがございます。輸入青果物サプライチェーンを構成する主要クライアント企業にご利用いただいている基幹システムのイーサポートリンクシステムにおいては、先ほど申しましたとおり、昨年フィリピンを襲った台風とその後の長雨の影響を受け、メイン商材であるバナナの輸入量が減ったことなどがひびき、売上が減少いたしました。

このイーサポートリンクシステムは、Ver.2として、現在、再構築を行っており、顧客のより高度なニーズにも対応でき

るよう進めております。これにより、新規顧客の獲得に努めていく考えです。

一方、生鮮MDシステムにおきましては、順調に拡大をしております。このシステムは、全国展開している大手小売・スーパーとその納入先の皆様にご利用いただいております。農産・水産・畜産を中心に導入が進んでいます。

生鮮MDシステムは順調に導入拡大しているようですが、 どういった特徴があるのでしょうか？

生鮮MDシステムは、生鮮三品の農産物、水産物、畜産物に対応できるシステムです。この生鮮品というのは、大変複雑でして、産地、サイズ、等級など、複数の属性があります。さらに、天候などにも大きく左右されますから、注文通りのものが入ってこないとか、腐敗していた、キズがあったなど、色々なことが日々起こっています。

当社は、これらをすべて網羅しシステム化しましたので、生鮮品のどんな商品に対しても対応が可能です。

また、経済産業省が推奨する「流通BMS」※に準拠して作られておりますので、さまざまなメリットを感じていただき、大手の小売・スーパーの皆さんをはじめ、納入業者の皆さんにお使いいただいているということです。

加工品に対応しているシステム会社は多数ありますが、当社のように生鮮品に特化したシステムを構築した企業は当社が一番であると自負しております。

※流通BMS：流通ビジネスメッセージ標準の略で、メッセージフォーマットを標準化させ電子的にやり取りするための形式



今後も生鮮MDシステムの躍進は期待できそうですね。

はい。生鮮MDシステムは、導入企業数と、取り扱い部門の拡大を図り、システム利用量をあげていきたいと考えています。また、お客様の信頼確保のために、ITサービスマネジメントの「ISO20000」を昨年取得いたしました。これは、ITサービスの内容やリスクの明確化による品質向上を実現する国際規格で、さまざまな効果が期待できるものです。当社はさらなる顧客満足度の向上に向けて取り組んでまいります。

次に、業務受託事業について教えてください。

業務受託事業は、生鮮流通に携わるさまざまな業種の方々に、生鮮品の発注から入金処理までの業務をお客様になり代わり、代行業務としてサービスを行っている事業です。2013年11月期は、バナナが災害の影響を受けたことにより、前年に比べ売上が減少いたしました。今期2014年11月期におきましては、バナナなどの輸入量はだいぶ取り戻すとみておりますが、引き続き、生産性を維持させ、確固たるクライアント企業のもと収益確保に努めてまいります。

農産物販売事業の状況はどうでしょうか？

農産物販売事業は、子会社の(株)農業支援の事業で、りんごの受託販売を中心に展開しています。2013年11月期は、りんごの集荷体制の多様化を図るとともに、受託販売の数量を拡大したことで、前期を上回る結果となりました。しかしながら、いまだ収支均衡には至っておりませんので、引き続き安定的な集荷体制の確立に取り組んでまいります。

また、新しい取り組みとして、株主優待品でご好評をいただいております、葉とらずりんごと100%りんごジュースの

通販サイトを立ち上げました。当社と農業支援のホームページにリンクを貼っておりますので、ぜひご覧になってください。(P.9に詳細掲載)

**今後の取り組みとして、
どのようなことがあげられますか？**

当社は、中長期的な成長に向けた研究開発にも積極的に取り組んでいます。

一つは、システム開発として、スマートフォン・タブレット型端末向けの研究開発を行いました。これは開発が進み、すでに商品化しています。タブレット型端末は、昨今、爆発的に普及しており、新しいデバイスとしてさまざまな分野に影響を及ぼしています。効果的に利用するにはどのようにしたら良いか、当社の新サービスとしてお客様に提案していきたいと考えております。

また、国内で構築した農産物流通のサプライチェーンを成長著しいアセアン諸国へ展開する事業の研究を始めました。JICAが行う「平成24年度外務省委託事業の案件化調査」に「農産物流通IT導入事業」で応募し、採択されたことから、「民間提案型普及・実証事業」を2013年9月より、フィリピン共和国において開始しております。今まで培ったノウハウや情報を活用し、システム開発をはじめ、さまざまなことに積極的に取り組むことで、新しい分野への拡大を考えております。

それでは、今期、2014年11月期の業績見通しをお聞かせください。

人口減少・高齢化等により国内の食品産業を取り巻く市場

は縮小傾向で推移するなど、当社の業界を取り巻く環境は、厳しい状況が続くと予想されますが、主要クライアント企業による安定した収益確保と、生鮮MDシステムの導入拡大から、増収増益を目指してまいります。また、今期は、基幹システムを再構築したイーサポートリンクシステムVer.2の稼動を控えております。これに関しましては、顧客からのより高度な要望に応え、さらには新しい分野の顧客にも対応すべく、時間をかけて構築を進めているところです。これからは新規顧客の獲得で、顧客層の幅を広げていき、収益拡大を図ってまいります。

これらのことから、売上高は47億円、営業利益は5億67百万円、経常利益は5億50百万円、当期純利益は3億26百万円の増収増益を見込んでおります。目標を高めに設定しておりますが、全社一丸となって取り組んでまいります。

最後に、株主の皆様へメッセージをお願いします。

当社グループは、「全ては生産者と生活者のために」という経営理念のもと、食の流通情報を活用し、生産者の暮らしを支え、生活者の食生活に貢献する企業グループを目指しております。今後さらに、当社が培ってきた生鮮流通におけるノウハウと強固な顧客基盤を武器に、新分野への開拓を推し進めてまいります。生鮮に特化した当社ならではの強みを活かしながら、事業の領域を広げ、成長を目指してまいります。

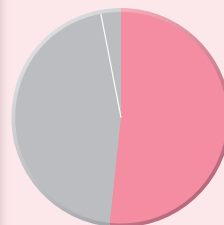
また、配当に関しましては、利益剰余金がマイナスのため、現在では実施することが出来ない状況ですが、業績回復していることもあり、株主様に早期に配当できるよう、業績拡大に努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後ともご指導・ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

セグメント別概況

売上高構成比

2,183百万円
51.7%



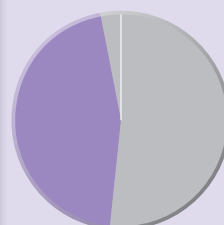
システム事業

業況

システム事業におきましては、主として流通における情報システムの提供を行っております。提供サービスに関わるソフトウェア、ハードウェアなどの保守・機能拡張を実施し、サービスレベル向上や災害対応力強化に努めております。輸入青果物サプライチェーン向けに提供するイーサポートリンクシステムにおきましては、現行システムの安定運用を継続すると共に、近年の多様化する顧客ニーズへの一層の対応を目指し、再構築に向けた開発を進めてまいりました。大手量販店デマンドチェーン向けに提供する生鮮MDシステムにおきましては、利用取引先数、データ件数を増加させてまいりました。以上の結果、売上高は21億83百万円(前連結会計年度比0.1%増)、営業利益は7億77百万円(同24.7%増)となりました。

業務受託事業

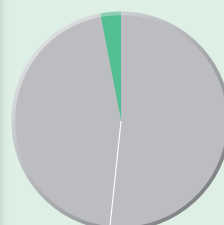
1,921百万円
45.5%



業務受託事業におきましては、主としてサプライチェーンにおける流通オペレーション機能を提供し、生産性向上による更なる流通合理化に努めております。サプライチェーンの流通合理化を実現するため、オペレーション効率化、人員配置適正化、災害対応強化などを進めてまいりました。以上の結果、売上高は19億21百万円(前連結会計年度比3.9%減)、営業利益は7億3百万円(同4.2%減)となりました。

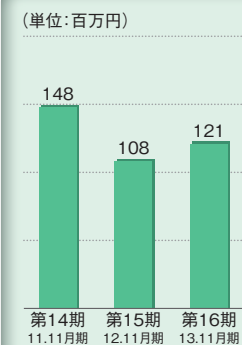
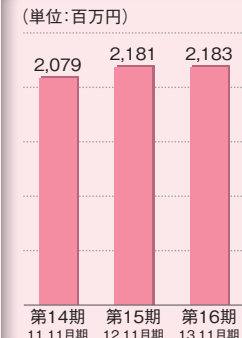
農産物販売事業

121百万円
2.8%



農産物販売事業におきましては、生産者との連携強化及び販路の拡大、収益力の改善に努めてまいりましたが、収支均衡には至りませんでした。以上の結果、売上高は1億21百万円(前連結会計年度比11.5%増)、営業損失は45百万円(前連結会計年度は営業損失60百万円)となりました。

売上高推移



連結財務諸表

※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結貸借対照表

科目	第16期 (当期) 2013年11月30日現在	第15期 (前期) 2012年11月30日現在
資産の部		
流動資産	3,154	2,812
固定資産	1,836	1,517
有形固定資産	434	274
無形固定資産	1,076	892
投資その他の資産	325	350
繰延資産	5	4
資産合計	4,996	4,334
負債の部		
流動負債	1,121	1,077
固定負債	1,094	794
負債合計	2,215	1,871
純資産の部		
株主資本	2,778	2,462
資本金	2,721	2,721
資本剰余金	620	620
利益剰余金	△563	△880
その他の包括利益累計額	2	1
純資産合計	2,780	2,463
負債純資産合計	4,996	4,334

連結損益計算書

科目	第16期 (当期) 自2012年12月1日 至2013年11月30日	第15期 (前期) 自2011年12月1日 至2012年11月30日
売上高	4,225	4,289
売上原価	2,382	2,622
売上総利益	1,842	1,666
販売費及び一般管理費	1,316	1,175
営業利益	526	490
営業外収益	14	9
営業外費用	23	26
経常利益	517	474
特別利益	0	0
特別損失	16	11
税金等調整前当期純利益	500	463
法人税、住民税及び事業税	113	6
法人税等調整額	70	16
当期純利益	316	439

連結キャッシュ・フロー計算書

科目	第16期 (当期) 自2012年12月1日 至2013年11月30日	第15期 (前期) 自2011年12月1日 至2012年11月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	809	646
投資活動によるキャッシュ・フロー	△346	△567
財務活動によるキャッシュ・フロー	△7	158
現金及び現金同等物の増減額	455	237
現金及び現金同等物の期首残高	2,169	1,932
現金及び現金同等物の期末残高	2,625	2,169

連結包括利益計算書(自2012年12月1日 至2013年11月30日)

科目	第16期 (当期) 自2012年12月1日 至2013年11月30日	第15期 (前期) 自2011年12月1日 至2012年11月30日
少数株主損益調整前当期純利益	316	439
その他有価証券評価差額金	1	3
その他の包括利益合計	1	3
包括利益	317	442
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	317	442

連結株主資本等変動計算書(自2012年12月1日 至2013年11月30日)

	株主資本				その他の包括利益累計額		純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	その他の包括利益 累計額合計	
2012年11月30日残高	2,721	620	△880	2,462	1	1	2,463
連結会計年度中の変動額							
当期純利益			316	316			316
株主資本以外の項目 の連結会計年度中の 変動額(純額)					1	1	1
連結会計年度中の変動額合計			316	316	1	1	317
2013年11月30日残高	2,721	620	△563	2,778	2	2	2,780

財政状態に関する分析

資産の部

当連結会計年度末における資産の残高は、前連結会計年度末と比べて6億61百万円増加し、49億96百万円(前連結会計年度末比15.3%増)となりました。内訳としては、流動資産が31億54百万円(同12.1%増)、固定資産が18億36百万円(同21.0%増)、繰延資産が5百万円(同29.0%増)となりました。流動資産の主な増加要因は、現金及び預金が3億55百万円増加したことによるものです。固定資産の主な増加要因は、ソフトウェア仮勘定が2億65百万円増加したことによるものです。

負債の部

当連結会計年度末における負債の残高は、前連結会計年度末と比べて3億44百万円増加し、22億15百万円(同18.4%増)となりました。

内訳としては、流動負債が11億21百万円(同4.1%増)、固定負債が10億94百万円(同37.8%増)となりました。

流動負債の主な増加要因は、1年内返済予定の長期借入金が73百万円、未払法人税等が1億8百万円増加し、短期借入金が1億75百万円減少したことによるものです。固定負債の主な増加要因は、社債が90百万円、リース債務が1億35百万円増加したことによるものです。

純資産の部

当連結会計年度末における純資産の残高は、前連結会計年度末と比べて3億17百万円増加し、27億80百万円(同12.9%増)となりました。

この結果、自己資本比率は55.6%となりました。その主な増加要因は、当期純利益を3億16百万円計上したことによるものです。

キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、税金等調整前当期純利益の計上、減価償却費の計上等により、当連結会計年度末には前連結会計年度末に比して4億55百万円増加し、26億25百万円となりました。当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は8億9百万円(前年同期は6億46百万円の収入)となりました。これは主に税金等調整前当期純利益を5億円計上したこと、減価償却費を2億1百万円計上したこと等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は3億46百万円(前年同期は5億67百万円の支出)となりました。これは主に無形固定資産の取得による支出3億20百万円等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は7百万円(前年同期は1億58百万円の収入)となりました。これは主に短期借入金の純減額1億75百万円、長期借入れによる収入2億円、社債の発行による収入1億96百万円等によるものであります。

展示会出展報告

■ 2013年10月23日(水)～25日(金) 『アグロ・イノベーション2013』に出展

農業生産と青果物流通技術の専門展示会『アグロ・イノベーション2013』に出展しました。
(於：東京ビッグサイト／主催：一般社団法人日本能率協会)

展示会場には、約150社が出展し、期間中およそ1万4千人の来場がありました。会場内では、情報を求める生産者、流通業、メーカーが出展ブースを訪れ、熱気のある商談・情報交換が積極的に行われました。

当社は、「明日からの取り引きをお手伝い！」をキャッチフレーズに掲げ、生鮮流通に携わるそれぞれの業態（生産者、中間流通業者、小売・スーパー）のニーズに合わせたサービスを紹介しました。

■ 農業経営者・生産者の方には、『農場物語』を！

農場物語

農産物生産者の生産・販売に関わる日々の“困った”を解決するために作られたシステムです。農業チェック機能や栽培情報の公開機能などを備え、簡単な操作で生産履歴管理をサポートします。

■ 小売・スーパー、中間流通業者の方には、『生鮮MDシステム』を！

生鮮MDシステム

小売・スーパーとその納入業者を結ぶ商物流管理システムです。生鮮品の仕入先から店頭までまでの情報をトータルで管理し、小売・スーパーの仕入担当者の適正な商品調達を実現に導きます。

出展ブース内においては、一日数回に分けて、システム概要のプレゼンテーションを行い、多くの皆様にご参加いただきました。



開催初日、会場入口には
受付を待つ長い列



当社展示ブースの様子



足を止め、真剣に話を聞く来場者に
当社スタッフの説明
にも熱が入ります



システムプレゼンテーションには、
毎回多くの方にご参加いただきました

■ 2014年2月12日(水)～14日(金) 『スーパーマーケット・トレードショー2014』に出展

スーパーマーケットを中心とする流通業界に最新情報を発信するプロ向け商談専門展として、2014年で48回目の開催を迎える『スーパーマーケット・トレードショー2014』に出展しました。
(於：東京ビッグサイト／主催：一般社団法人新日本スーパーマーケット協会)

開催テーマ“創”ニッポン ～豊かな地域社会づくりのために～のもとに約1,400社が出展、約8万人の来場者で会場は賑わいました。

開催の様子は、第17期中間「株主通信」でも引き続きお伝えします。



展示会開催期間中は、多くの皆様にブースにお立ち寄りいただき、貴重なご意見、ご質問を多数いただくことができました。当社は、今後もこういった専門展示会にも積極的に参加し、皆様の声を事業活動に活かしていきたいと考えております。お客様からのご期待に応えられるよう、今後とも努力を続けてまいります。

展示会出展の様子は、ホームページ～「ニュース&トピックス」にも掲載しております。

IR活動報告

当社は、経営の透明性を高めるため、情報開示をはじめ投資家向け説明会の開催など、積極的に推進しています。

■ 2013年7月22日(月) 機関投資家向け「2013年11月期第2四半期決算説明会」を開催

■ 2013年10月31日(木)「合同個人投資家セミナー」(大阪開催)に参画

野村インベスター・リレーションズ株式会社主催の「合同個人投資家セミナー」に参画しました。当社2度目となる大阪開催においても、引き続き多くの個人投資家の皆様にご参加いただき、当社を取り巻く環境と事業概要を中心に説明を行いました。

合同個人投資家セミナーの資料/動画をホームページに掲載しています。ホームページ～「株主・投資家情報」の「最新のIRイベント」からご覧ください。

■ 2014年1月24日(金) 機関投資家向け「2013年11月期決算説明会」を開催

いずれの資料も、ホームページ～「株主・投資家情報」の「IRライブラリー」に掲載しておりますので、ご覧ください。

りんごの通販を始めました♪

“HAPPY HAPPY SHOP”

(株)農業支援の主要取引先である「岩木山りんご生産出荷組合」によって作られた“葉とらずりんご”[※]や“りんごジュース”を、皆さんに手軽に楽しんでいただけるようになりました。

[※]葉とらずりんごとは、葉っぱを摘まずりんごに栄養分が充分行きわたるように栽培したりんごのことです。

通販サイトトップページ
青森県弘前の空気を
お届けします。

商品一覧ページでは、旬の
商品をご紹介します。
ぜひ、ご賞味ください。



りんごの通販サイト
“HAPPY HAPPY SHOP”

イーサポートリンク／農業支援とともに、ホームページトップにバナーを掲載しています。
商品のお求めは、こちらをクリックしてください！



りんごの通販サイト
“HAPPY HAPPY SHOP”

こちらをクリック！

上段メニューの「商品一覧」をクリック！



企業情報

(2013年11月30日現在 ※役員は2014年2月26日現在)

会社概要

商号	イーサポートリンク株式会社 (英字商号 E-SUPPORTLINK, Ltd.)
本社所在地	東京都豊島区高田二丁目17番22号
設立	1998年10月6日
資本金	2,721百万円
従業員	234名(連結) 227名(個別)

役員

代表取締役社長	堀内 信 介
取締役	松丸 正 明
取締役	仲村 淳
取締役	森田 和 彦
社外取締役	村井 勝
社外取締役	下戸 章 弘
常勤監査役	伊藤 日出夫
監査役	吉田 茂
監査役	升田 和 一

株式の状況

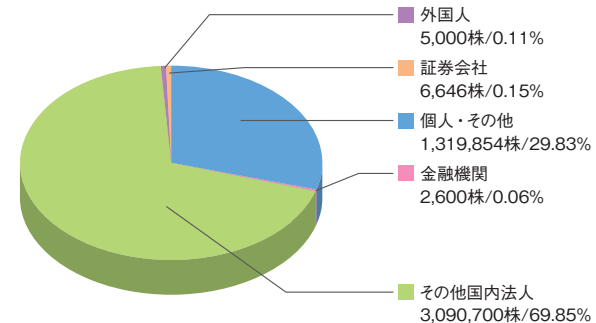
発行可能株式総数	10,700,000株
発行済株式総数	4,424,800株
株主総数	7,179名

大株主一覧表

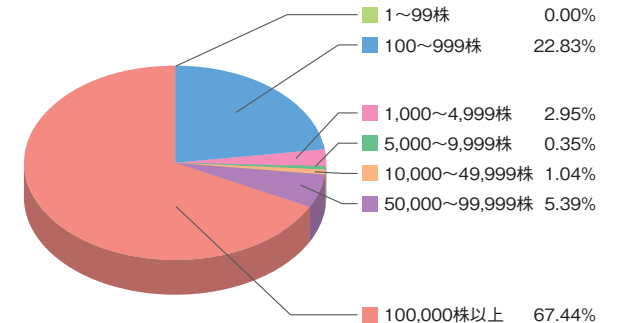
株主名	持株数(株)	持株比率(%)
フレッシュMDホールディングス株式会社	1,672,800	37.80
株式会社ケーアイ・フレッシュアクセス	433,300	9.79
全日本ライン株式会社	195,600	4.42
ピー・エス・アセット・ホールディングス株式会社	188,300	4.25
株式会社上組	166,700	3.76
東洋埠頭株式会社	111,100	2.51
オリックス株式会社	111,100	2.51
株式会社フレッシュプロデュースドットコム	105,000	2.37
ファルコン投資事業組合	97,800	2.21
イーサポートリンク従業員持株会	70,600	1.59

株式分布状況

■ 所有者別



■ 所有株式数別



株主メモ

事業年度	毎年12月1日～翌年11月30日
定時株主総会	毎年2月下旬
基準日	11月30日
単元株式数	100株
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社

	証券会社等に 口座をお持ち の場合	証券会社等に口座を お持ちでない場合 (特別口座の場合)
郵便物送付先		〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行 証券代行部
電話お問い合わせ先	お取引引きの 証券会社等に なります	フリーダイヤル 0120-288-324 (土・日・祝日を除く9:00~17:00)
各種手続き お取り扱い店 (住所変更等)		みずほ証券株式会社 本店、全国各支店および営業所 プラネットブース(みずほ銀行内の 店舗)でもお取り扱いいたします*1 みずほ信託銀行株式会社 本店および全国各支店*2

*1：カスタマープラザではお取り扱いできませんのでご了承ください。

*2：トラストラウンジではお取り扱いできませんのでご了承ください。

公告方法 電子公告(当社ホームページ)
ただし、やむを得ない事由によって、電子公告による公告をすることができない場合には、日本経済新聞に掲載して行います。

住所変更手続きについて

当社株式関係書類及び株主優待等ご送付にあたり、お引越し等により住所が変更となられている場合、お手元に届かないことがございます。住所が変更となる際は、大変お手数ではございますが、なるべく早めに当社株式をお持ちの証券会社にて住所変更手続きをお願いいたします。

ホームページのご案内

当社では、「株主通信」ではお伝えしきれない情報をホームページにて開示しています。株主・投資家の皆様に向けて、決算情報、決算説明資料、PR情報など、タイムリーな情報提供を心がけております。ぜひ、ご覧ください。

<http://www.e-supportlink.com/>

The screenshot shows the homepage of E-Support Link. At the top, there is a navigation bar with links for Home, Company Information, Business Introduction, Investor Information, and Shareholder Information. Below the navigation bar is a large banner with the text '生産者から生活者まで、想いを届ける 皆さまのベストパートナーを目指して!' and an illustration of a farm scene. The main content area is divided into several sections: 'ニュース&トピックス' (News & Topics) with a list of recent news items, 'IRニュース' (IR News) with a list of recent IR news items, and '業種・お悩み別サービス案内' (Business & Service). There are also promotional banners for 'バナナ物語' (Banana Story) and 'HAPPY HAPPY SHOP'. At the bottom, there is a footer with contact information and a copyright notice.

イーサポートリンク株式会社

〒171-0033 東京都豊島区高田二丁目17番22号
TEL：03-5979-0666 FAX：03-5979-0667